



5万分の1地質図幅の新刊

浅舞

ASAMAI

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著者 大沢 穠 (地質部)・大口 健志・高安 泰助
(秋田大学)
発行 工業技術院 地質調査所
取扱先 地学文献センター(0423)62-5050

- ・浅舞図幅地域は東北地方グリーンタフ地域特有の第三系からなっている。この地域の地表には第三系の基盤をなす白亜紀の神室山花崗岩類が分布していないが試掘井データなどからみて隆起部では地下350—400mのところ潜在していて予想外に浅い。
- ・第三系は下位から飯沢層・畑村層・須郷田層・女川層および船川層に分けられる。前3者はいわゆる

“グリーンタフ”であって女川層および船川層は含油第三系である。南隣の湯沢図幅地域でみられた最下位の湯ノ沢川層を欠いている。

- ・飯沢層(層厚300—500m)は(変質)輝石安山岩溶岩および火砕岩からなり泥岩を挟んでいる。本層中から阿仁合型植物化石を豊富に産し秋田県男鹿半島の広義の台島層下半部にほぼ対比される。
- ・畑村層(層厚100—400m)は酸性—塩基性の火砕岩を主とし珪化木や台島型植物化石を多産し男鹿半島の広義の台島層上半部(一西黒沢層下半部)にほぼ対比される。
- ・須郷田層(層厚100—300m)は上述の各層を整合(一部不整合)におおい砂岩および礫岩を主とし海棲貝化石および有孔虫化石を豊富に産する。本層は男鹿半島の西黒沢層にほぼ対比される。
- ・女川層(層厚150—450m)は硬質泥岩を主とし船川層(層厚150—400m)は暗灰色泥岩を主としている。
- ・浅舞図幅地域の大部分の地区は上述の各層の堆積時をつうじて浅海域—陸域であったと考えられ酸性—中性の溶結凝灰岩がみられる。また女川層および船川層の堆積時をつうじてみると秋田油田地域の日本海沿岸沿いの秋田・羽後和田・本荘などの各図幅地域では層厚1,000—1,500mところにより2,000m以上のすこぶる厚い泥岩相を堆積しているのに対しこの地域の大部分は堆積盆の微沈降区もしくは周縁部にあたり層厚500—600mところにより300m以下である。
- ・南隣の湯沢図幅および昭和51—52年に出版された羽後和田・秋田・本荘の各図幅をもあわせてみると東北地方グリーンタフ地域の日本海沿岸地域から内陸盆地地域までの地質についてよく理解出来るとおもわれるので是非これら5図幅を読まれることをおすすめしたい。

地質ニュース	第308号	4月号
	定価 ¥500	千実費
昭和55年4月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	